



2022年 第267号

ひろしまの 土地改良



第17回ひろしまの農村フォトコンテスト 審査委員特別賞

「寒水作業」 田村 正篤（撮影場所：三原市（大和町））

謹んで新春のお慶びを申し上げます

広島県土地改良事業

（水土里ネットひろしま）
団体連合会

会長 木山 耕三

副会長 奥田 正和

副会長 明岳 周作

副会長 上田 浩司

常務理事 吉田 隆行

理事 三村 裕史

理事 箕野 博司

理事 福岡 誠志

理事 箕田 英紀

理事 松田 一馬

理事 枝廣 直幹

理事 入江 嘉則

理事 平谷 祐宏

理事 高垣 廣徳

理事 高田 幸典

代表監事 今榮 敏彦

監事 久川 廣昭

監事 仲伏 英雄

外職員一同

令和四年元旦

新年のごあいさつ



みどり
水土里ネットひろしま
広島県土地改良事業団体連合会
会 長 き や ま こう ぞう
木 山 耕 三

新年、明けましておめでとうございます。

会員並びに関係者の皆様には、日頃より土地改良事業の円滑な推進と農業農村の振興、並びに本会の運営につきまして、格別なご理解とご支援を賜り心より厚くお礼申し上げます。

依然として、新型コロナウイルス感染症の影響により、社会経済や日常生活は厳しい状況に見舞われております。しかしながら、ワクチン接種も進み感染者が減少したことで、行動制限も緩和されつつあり、わずかながら明るい兆しも見えてきました。まだまだ何かと不便の多い今日ですが、この状況が一刻も早く解消し、平穏な日々が戻りますことを切に願っております。

さて、昨年閣議決定された「コロナ克服・新時代開拓のための経済対策」においては、「デジタル田園都市国家構想」の下、スマート農業による成長産業化を推進し、生産基盤の強化を図るほか、農業・農村が持つ多面的機能を維持し、多様で豊かな農業を構築することが示されました。

これらを実現するためには、担い手の育成や確保、農地の集積等を進めるとともに、農地の大区画化や・汎用化等の農地整備や適時・適切な農業用水利施設等の維持・更新が必要不可欠です。このためにも、農業農村整備を計画的に推進し着実に実施する事が必要と考えます。

また、近年は豪雨災害が頻発し大規模地震の発生が危惧されており、ため池等の耐震化や洪水被害防止対策など、防災・減災対策を強力に推進し、安全・安心な農村地域の暮らしを守るための、国土強靱化への取り組みが重要です。

このことにより、食料の安定供給の確保、農業の持続的な発展、農村の振興等施策の推進と実行により、「我が国の食と活力ある農業・農村」が次世代に継承されるものと考えます。

本会といたしましては、長年培ってきた技術と経験を最大限に活かして、「国の基」である農業の持続的な発展と、活力ある農村の実現に向け、役職員一丸となって取り組んで参ります。

本年も一層のご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げますとともに、皆様のますますのご発展とご健勝をお祈り申し上げます、新年のごあいさつといたします。

新年のごあいさつ



広島県農林水産局長

佐伯 安史

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

昨年7月から9月にかけて立て続けに発生した豪雨では、河川や道路といった公共施設及び農地・農業用施設の損壊など甚大な被害が発生しました。災害発生直後からの、応急措置による2次被害の防止や、昨年末までの災害査定終了など、皆様の懸命の御努力に対しまして深く敬意を表します。

引き続き、早期の農業経営再開に向けて農地・農業用施設の復旧にご尽力賜りますようお願いいたします。

さて、県では、少子・高齢化の進行、デジタル技術の進展、豪雨の多発などの環境変化を踏まえつつ、生産性の高い持続可能な農林水産業の確立を目指し、「2025農林水産業アクションプログラム」に基づく様々な施策を進めているところでございます。

このプログラムの目標を達成する上で、農業農村整備事業には、地域の中心となる担い手に農地を集積し、大区画化や排水対策などの農地整備と併せ、スマート農業技術の活用できる情報基盤等の整備により生産性を更に向上させることがより一層求められてまいります。

また、ため池総合対策につきましては、適正な管理に向け、ため池の状態把握や技術的な助言などを行うための仕組みとして、昨年5月に「広島県ため池支援センター」を開設しました。管理者と行政が双方向で情報を共有しながら被害の未然防止に取り組むとともに、現在調査中のため池詳細診断の結果に基づく地域の話し合いを促進させ、計画的な防災工事を進めることが必要でございます。

更には、コロナ禍や豪雨による浸水被害などを背景に、農業や農村が有する豊かな自然や洪水調節機能なども、改めて注目されていますが、こうした多面的な機能が十分に発揮されるよう日常の点検や診断を踏まえ農地や農業用施設を適切に保全していくことも重要となってまいります。

このため、こうした農業基盤の整備、防災・減災対策並びに農地や農業用施設の保全対策など必要となる農業農村整備事業を、皆様とともに取り組むことで農業農村の振興が図られるよう、引き続きの御協力をよろしくお願いいたします。

終わりにになりましたが、皆様方の今後ますますの御健勝と御活躍を祈念いたしまして新年の御挨拶といたします。

令和4年1月

「事業を機に設立した法人が営農と地域作りの中心に、JGAP認証取得や交流事業で地区のファンを拡大」

農事組合法人くろぶち

令和2年度農業農村整備優良地区コンクール、中山間地域等振興部門農村振興局長賞を受賞した、世羅町「農事組合法人くろぶち」の取り組みについて紹介します。

■全戸参加型の法人が誕生、農地集積を進め効率的な営農が実現

世羅町の北に位置する黒淵地区は、江の川水系黒淵川の最上流域の山沿いに細長く開けた山間農村地帯で、農業に適した気候と豊かな自然に囲まれた中山間地域です。

平成4年から14年にかけて圃場整備事業に取り組み、約40haの区画整理や用排水の分離と暗渠排水により、生産性向上に向けた環境が整いました。平成13年事業を機に「農事組合法人くろぶち」が設立されました。事業理念は「人と地域環境に優しく農産物を通じ、お客様に信頼と感動をお届けする」、全戸参加型の法人です。

今では、大区画化した農地を法人へ集積し、効率的な営農が行われており、水稻・大麦・大豆の穀物を中心に栽培する他、整備事業によって高収益作物の導入が可能となったことから、キャベツやとうもろこし、アスパラガスなどの野菜栽培にも取り組んでいます。



大型機械による農作業風景

■ブランド化した米を高価格で取引、祭りや出前販売で消費者と交流も

法人は、この地域に適した環境にやさしい農産物の生産に向け、エコファーマーの取得やJGAP認証を平成25年に取得するなど、法人経営力強化に向けた永続的な営農展開を図っています。県内でも数少ないJGAP認証農場で栽培された穀物は高い付加価値となり、法人が生産する特別栽培米「くろぶち米」は、スーパーや米卸業者の間では最高級ブランドとして取り扱われています。米袋のパッケージには、数量限定の「世羅黒淵 契約米こしひかり」と明記し、黒淵地区で栽培されたことを消費者にアピール。スーパーの店頭等で高価格で販売され、収益性の向上に大きく貢献しています。

また、6次産業化も推進し、スーパーや米卸業者等と共同で、特別栽培米を使った甘酒（黒淵ぞんぶん）やカレーうどん、菓子などの加工品を製造しています。こちらもスーパーなどで販売され、消費者から好評です。



契約米こしひかり・甘酒等

法人では、生産者の顔が見える交流事業を積極的に行い、黒淵地区のファン拡大を目指して、米の販売先であるスーパーや米卸業者、JA全農ひろしま、JA尾道市、世羅小学校や子供会等と連携し、都市住民との交流の場として「農業体験ふれあい祭り」を、春と秋の年2回開催しています。田植えや稲刈り、野菜の収穫体験、生き物調査などを行い、親子連れを中心に毎回130名ほどが参加します。また女性会が中心となり、スーパーでの出前販売や地元子供会での餅つき大会なども行い、消費者と直に触れ合う機会を作っています。子どもたちに体験を通して、自然と触れ合う喜びを感じてもらい、将来子どもたちが、黒淵の自然環境を保護する活動に参加してくれることを願っています。



稲刈り・田植え体験・生き物調査



■「集落を守る」を合言葉に、環境保全や絶滅危惧種の保護に尽力

法人では「集落を守る」を合言葉として、生産活動だけでなく、農地や農業用水などの豊かな資源や美しい自然を守る活動にも力を入れています。

法人が中心となり、農業者だけでなく非農業者も参画して、地域ぐるみで資源保全活動を推進しています。道路・水路の補修工事や草刈りなどのほか、道路脇にチューリップやシバザクラを植栽するなど、地域住民が協力して景観形成にも取り組んでいます。

黒淵地区は、澄んだ水や天然の湿地など自然の宝庫で、希少種のカスミサンショウウオ、ニホンアカガエル、ハッチョウトンボなどが生息しています。

また、絶滅危惧に指定されている蝶のヒョウモンモドキが生息しています。この保護に向け協議会を設立し、専門家の指導の下、小学校や世羅高校と一緒に保護活動を続けています。休耕田を利用してヒョウモンモドキの生息に必要なアザミを植栽したり、適正な草刈りや産卵調査をしたりと、生息しやすい環境作りに努めています。

その効果でヒョウモンモドキの数は徐々に増え、今では地域の約半分に生息するようになりました。希少な生物が生息する地域として黒淵地区の自然環境や保護活動への関心が高まれば、多くの人々が黒淵を訪れ、地元の活性化につながるものと期待しています。

法人では、自分たちの取り組みを次世代に継承するため、今まで蓄積した、農作業や栽培のノウハウをマニュアル化する作業を進めています。今後は後継者となる経営人材の育成にも力を入れ、持続的な営農を実現し集落を守り続けたいと考えています。



アザミの定植作業風景



アザミとヒョウモンモドキ

* 令和2年度農業農村整備優良地区コンクール報告書引用

「ふるさとの田んぼと水」 子ども絵画展 2021

「ふるさとの田んぼと水」子ども絵画展2021に
全国各地から多数の作品が寄せられ、入賞33点、
地域団体賞45点、入選150点が決定しました。

広島県からは、入賞3点、地域団体賞3点、入
選13点が選ばれました。



ふるさとが、好きだ賞

「たまねぎのしゅうかく」
松倉 惺介 (広島市立宇品小学校)



全米販 ごはん彩々賞

「豊作と感謝」
内藤 弥比古 (学校法人杉原学園松永幼稚園)



日本基礎技術賞

「むしたちのせかい」
佐藤 遼汰朗 (学校法人杉原学園松永幼稚園)



水土里ネット福山 優秀賞

「せみとわたし」
檀上 紗和 (学校法人杉原学園松永幼稚園)



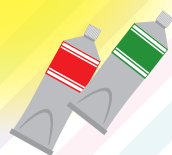
水土里ネット福山 可愛い大賞

「くawaii畑のシェアハウス」
宮本 桃花 (福山市立新涯小学校)



水土里ネット祇園 八木用水賞

「にぎやかな田んぼ」
石本 成生
(広島市立八木小学校)



「ザリガニつかまえた」
富田 瑛斗
(学校法人杉原学園松永幼稚園)



「大好きな虫たちとぼく」
森 匠吾
(学校法人杉原学園松永幼稚園)



「さんば」
近藤 ひなた
(学校法人杉原学園松永幼稚園)



「どじょうさん！遊ぼう!!」
須田 絢仁
(三光学園 神辺千鶴幼稚園)



「たんぼとでんしゃ」
濱田 昂希
(学校法人杉原学園松永幼稚園)



「初めての田植え」
浜野 木乃華
(学校法人杉原学園松永幼稚園)



「どじょうさんに乗ってLet'sGo!!」
山口 湊大
(三光学園 神辺千鶴幼稚園)



「ぼくがはじめてみた田んぼ」
迫地 透吾
(福山市立新涯小学校)



「ぶどうのおっちゃん」
季平 遊喜
(福山市立山南小学校)



「クリがいっぱい」
鈴木 南
(広島市立古田小学校)



「トンボのしゅうごうばしょ」
岸本 樹
(竹原市立仁賀小学校)



「田んぼにひりょうをあげるおじいちゃん」
眞谷 磨昊
(福山市立多治米小学校)



「くわい畑」
柴田 和佳奈
(福山市立川口小学校)





広島県ため池支援センターだより

広島県ため池支援センターでは、**農業用ため池管理者研修会**を福山市の夜打ヶ谷池を皮切りに要望のあったため池で順次開催しています。

ため池管理者及び各市町担当者の皆さまにはご多忙のところ多数ご参加頂きありがとうございます。

座学研修では、ため池の基本的知識や日常点検の方法並びに簡易な補修方法について研修資料に沿って説明を行いました。

また、緊急時の対策として「**住民の迅速な避難行動への誘導**」について、広島県及び各市町が公表している、浸水想定区域図やハザードマップで説明し、いざと言うときに地域住民の方が適切な行動が取れるよう意識の醸成を促しています。

現地研修では、ため池の現地で日常点検について、重点的に点検をする箇所や点検記録簿への記入方法などを実践しました。

今後この研修によって、ため池管理者や利用者の方が主体的に適正管理へ取組んで頂けるよう、広島県ため池支援センターでは引き続き助言指導等行って参ります。



現地研修（福山市・富谷池）



座学研修（福山市芦田支所）



農地・水・環境 NEWS

広島県農地・水・環境保全協議会

令和3年度多面的機能支払交付金（農地維持支払・資源向上支払）の研修会を開催しました。

今年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、令和3年11月25日（広島会場）、12月7日（三原会場）、12月14日（三次会場）の3ブロックに分けて開催し、約780名の活動組織の方々が参加されました。

報告書類の書き方や農業用施設の日常点検の他、農業機械（刈払機等）の安全使用及び事故事例について、ロイヤルパワーアップスクールの方を講師に招き説明をしていただきました。



活動の実施・記録・実施状況
報告について



農業機械（刈払機等）の安全使用及び
事故事例について



農業用施設の日常点検について